

↓ 当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

- [45484] SIL-TAL1 mRNA定量解析
- [45485] MLL-AF1q mRNA定量解析
- [45486] E2A-HLF mRNA定量解析

受託開始日

- 平成28年3月15日 (火)



白血病関連遺伝子定量解析

弊社では新たにリアルタイムRT-PCR法による下記3種類の白血病関連融合遺伝子mRNA定量検査の受託を開始致します。

●SIL-TAL1 mRNA定量解析

T-ALL (T-cell acute lymphoblastic leukemia) は急性リンパ性白血病 (ALL) のおよそ15～25%に認められ、さらにTAL1 (11p32) 遺伝子の変異の非ランダム遺伝子の欠失がしばしば小児T-ALLで検出されます。SIL-TAL1融合遺伝子はTAL-1遺伝子上流に位置するSIL遺伝子との部分欠失によって形成され、TAL1の不適切な発現を促し、白血病の誘発を促進すると考えられています。

●MLL-AF1q mRNA定量解析

MLL (mixed lineage leukemia) 遺伝子は染色体11q23に存在し、造血器悪性腫瘍において異なるパートナーとの様々な転座によるキメラ遺伝子が認められており、急性骨髄性白血病 (AML) や急性骨髄単球性白血病 (AMMoL)、急性リンパ性白血病 (ALL) など検出されています。MLL-AF1qはMLL遺伝子と1番染色体のAF1q (MLLT11) 遺伝子が転座により融合したキメラ遺伝子で、本検査はMLL-AF1qのmRNAをRT-PCR法により定量的に検出するものです。

●E2A-HLF mRNA定量解析

小児リンパ球性白血病 (ALL) の中でPh1陽性やMLL⁺のALLは治療抵抗性であり予後不良とされており、また17;19転座型は小児ALLの約0.5%に生じるといわれる稀な疾患ですが、特に予後不良と考えられています。17;19転座型は19番染色体上のE2A遺伝子と17番染色体のHLF遺伝子が融合してE2A-HLFが形成されます。E2Aは転写活性化因子でリンパ球系の発生・分化に関わり必須とされていますが、反面、HLFは血球系にはほとんど発現していません。E2A-HLF遺伝子はE2Aのプロモーター制御により、17;19転座型ALLにおいて恒常的に発現し、転写活性化因子としてALLに関わる標的遺伝子の発現を誘導していると考えられています。

検査要項

項目コード	45484	45485	45486
検査項目名	SIL-TAL1 mRNA定量解析	MLL-AF1q mRNA定量解析	E2A-HLF mRNA定量解析
検体量 / 保存方法	EDTA-2Na加血液 7mL / 冷蔵 [容器番号 : 89] または 骨髄液 1mL / 冷蔵 [容器番号 : 22]		
検査方法	リアルタイムRT-PCR法		
基準値	検出せず		
報告単位	copy/μg RNA		
所要日数	4～10日		
備考	受付曜日：月～金曜日（休祝日とその前日は不可） ご依頼に際しては、『遺伝子検査依頼書』をご利用下さい。		

参考文献

- (SIL-TAL1) Mariella D' Angiò et al : haematologica 100 : e10-13, 2015.
- (MLL-AF1q) M Busson-Le Coniat, et al : Leukemia 13 : 302-306, 1999.
- (E2A-HLF) 犬飼岳史 : 日本検査血液学会 10 : 472-479, 2009.